



YouTube : <https://bit.ly/3B5kFtS>
Facebook : <https://www.facebook.com/iisia.jp>
X (Twitter) : <https://twitter.com/iisia>
Instagram : https://www.instagram.com/iisia_official/

X (Twitter)

Instagram

LINE



IISIA

株式会社 原田武夫国際戦略情報研究所

Institute for International Strategy and Information Analysis, Inc.



RIJAG

一般社団法人 日本グローバル化研究機構

Research Institute for Japan's Globalization



IISIA



RIJAG

2024年度 社会貢献事業報告書

- 1 IISIA/RIJAG概要
- 2 Vision/Mission
- 3 IISIAファウンダー/代表取締役CEO・RIJAG代表理事 原田武夫ご挨拶
- 4 社会貢献事業 運営体制
- 5 「Pax Japonica(パックス・ジャポニカ)」実現のための国内プロジェクト
 - ①若手人材のためのアントレプレナーシップ教育
 - ・IISIA読書会2024
 - ・東京大学1年生向け主題科目「UT-ONE」
 - ・ひろしま好きじゃけんコンソーシアム
 - ・学生インタビュー
 - ②広島大学75+75周年・東広島市制施行50周年記念特別講演会
 - ③東京大学との共同研究
 - ④四万十市「七星剣」年代確定プロジェクト
 - ⑤NHK交響楽団への支援
 - ⑥Project Pax Japonica社会浸透のための説明会
- 6 「Pax Japonica(パックス・ジャポニカ)」実現のための海外プロジェクト
 - ①国連大学との共同ウェビナー実施
 - ②UNUグローバルAIネットワーク参画
 - ③サンクトペテルブルク国立経済大学との協定更新
 - ④海外出張2024
- 7 次年度のプロジェクト構想
- 8 会員制サービス「原田武夫ゲマインシャフト」会員様の声
- 9 ご支援のお願い/編集後記

IISIA概要

商号 : 株式会社原田武夫国際戦略情報研究所
 Institute for International Strategy and Information Analysis, Inc.(略称:IISIA)

FOUNDER/代表取締役CEO : 原田武夫

設立登記 : 2007年4月2日

事業内容 : 国内外情勢に関する調査研究、及び教育活動並びに経営コンサルティング業

資本金 : 3,000,000円

本社所在地 : 〒100-0005 東京都千代田区丸の内二丁目3番2号 郵船ビルディング 3F

URL : <https://haradatakeo.com/>

RIJAG概要

法人名 : 一般社団法人日本グローバル化研究機構
 Research Institute for Japan's Globalization (略称:RIJAG)

設立登記 : 2011年9月29日

事業内容 : 「グローバル社会における我が国の在り方」を研究し、
 世界に向けて開かれた未来指向の提案を行っていく為のプラットフォーム創作

URL : <https://rijag.org/jp/>

YouTube : <https://bit.ly/3B5kFtS>

Facebook : <https://www.facebook.com/iisia.jp>

X(旧Twitter) : <https://twitter.com/iisia>

Instagram : https://www.instagram.com/iisia_official/

X(旧Twitter)



Instagram



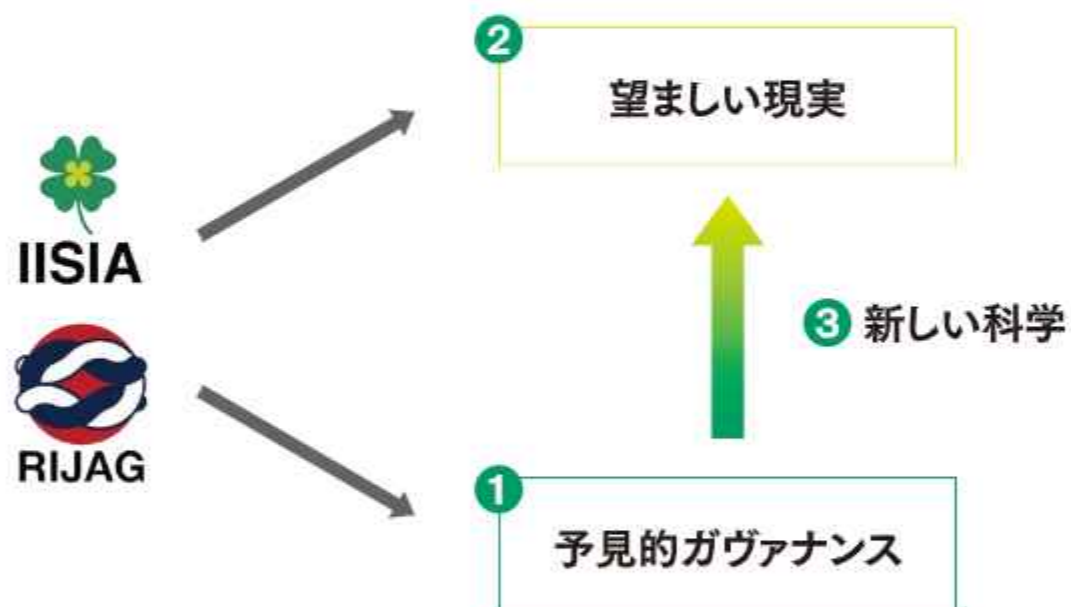
LINE



「Pax Japonica(パックス・ジャポニカ)」

2024年は「史上最大の選挙イヤー」でした。人口約45億人を抱える約80か国で選挙が行われ、その中には長年の政権が交代した国もあります。米国大統領にトランプ氏が返り咲き、東欧の戦争の終結が見えてきました。恐れられた感染症も今や共生することが当然となりました。近年は人工知能(AI)への期待がさらに高まると共に、私たち“ヒト”が何にフォーカスすべきか改めて問われているようにも感じます。まさにVUCA(Volatility(変動性)・Uncertainty(不確実性)・Complexity(複雑性)・Ambiguity(曖昧性)の頭文字を取った造語)と呼ばれる時代でありながらも、着実に新たな未来へと動き出していると感じた一年でした。

人類社会全体にとっての転換点とも言える今、弊研究所が掲げるビジョンである「Pax Japonica(パックス・ジャポニカ)」の実現可能性が益々高まってきております。弊研究所は「Pax Japonica(パックス・ジャポニカ)」を以下のとおり定義し、「Pax Japonica(パックス・ジャポニカ)」実現に向けた活動を各方面で展開して参りました。



“Pax Japonica”とは?

- ① 未来シナリオの構築を行うことで予見的ガバナンスの見地に立ちながら
- ② リスクフリーな環境整備を行いつつ
- ③ パブリック・エンゲージメント(Public Engagement)を伴う先端技術の社会的実装を我が国においてまずは実現し
- ④ そこで達成する「人類全体に共通する課題の数々(Grand Challenge(グランド・チャレンジ))」の解決、さらには望ましい現実(国連「持続可能な開発目標(SDGs)」等に記されているゴールに到達した場合の未来図等)の創造のための具体的な手法を、今度はグローバル社会全体に転移させていくプロセスを通して、近未来のモデルを提示する。

Giving the People Hope and Future

私たちは、「我が国と世界の全ての人々に希望と未来がもたらされること」を目標に活動しております。あらゆる違いを越えた場づくり、輝くイノベーションをもたらす人財の育成と助言、そして“情報リテラシー”の研究開発と普及を行っております。

この“情報リテラシー”をもって今求められていることがまさに未来シナリオの構築です。この未来シナリオを我が国の視点からアップデートし続けることで予見的ガバナンスを可能にし、国内外の様々なステークホルダーと共に先端科学技術の社会実装を行い、在るべき我が国、そしてグローバル社会の未来を実現することが弊研究所の役割です。





「世界は音を立てて動いているのに、なぜ我が国だけは遅々として動かないのか」

——そんな強い想いを胸に、12年余りにわたって奉職した外務省を後にしつつ、私・原田武夫は2005年4月1日に弊研究所を設立致しました。

その後、我が国とそれを取り巻く国内外情勢は収斂していくのではなく、むしろ更なる混乱とリスクの拡散へと向かい続けています。その様な中で私たちは日々翻弄され、不安を抱え、時には未来への希望すら失いかけることさえあるのです。

「希望を抱け。輝く未来は必ずやって来る」

そう唱えるだけではなく、なぜそのように考えるべきなのか、またそのために何を今、すべきなのかについて提言し、具体的に行動するのが私たちの役割です。

また「それでは一步踏み出してみようか」と勇気を振り絞る皆様のお手伝いをさせて頂いております。ますます動揺していく状況の中で途惑っているのは何も私たち日本人だけではありません。グローバル社会の中で多くの人々が混乱し、未来に向けた希望の光を見失いかけています。弊研究所は我が国において育まれてきたものをあくまでもベースにしながら、そうした全世界の人々に対して「在るべき姿とそれに向けた方向性」を示して来ています。私たちはそのことを通じて、世界中の人々が幸せの中で自らを実現していく時代としての全く新しい原理原則に基づく「Pax Japonica(パックス・ジャポニカ)」へと転換していくことをビジョンとして掲げております。

私たちは2025年度、本報告書に記載の社会貢献事業をベースとし、「アートとテクノロジーでアントレプレナーシップをもたらすIISIA」を体現してまいります。私たちは「いつまでも動かないニッポン」を「新しい世界を創造していく中核的な担い手としてのニッポン」へと昇華させていくことを通じて、次の時代を引き続き切り開いていくべく、今後共多方面での社会貢献事業に精力的に取り組んでまいります。

未筆ながら、株式会社としての設立登記を行い、私たちの活動を始めてから18年間にわたり行って参りました社会貢献事業は、一重に会員制サービス「原田武夫ゲマインシャフト」所属会員の皆様から日頃賜っておりますご厚情の賜物でございます。この場をお借りして心より御礼申し上げますと共に、今後とも未永くご指導・ご鞭撻の程、何卒宜しくお願い申し上げます。

原田 武夫

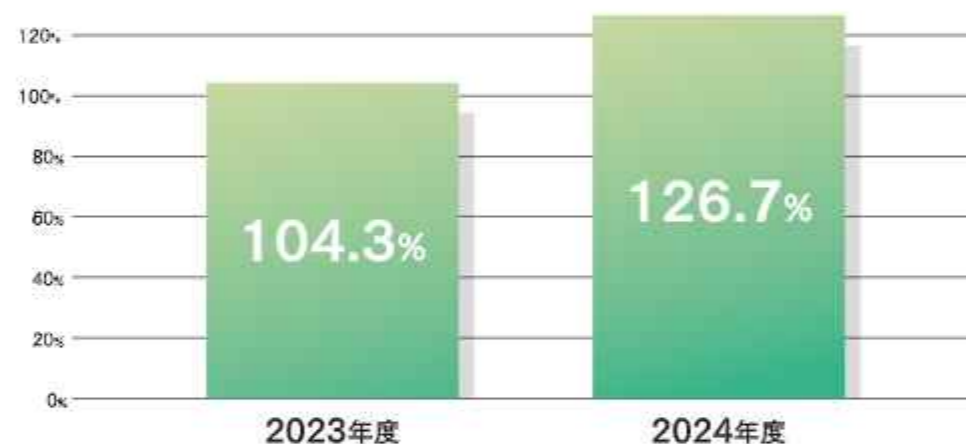
社会貢献事業 運営体制

弊研究所の社会貢献事業は、会員制サービス「原田武夫ゲマインシャフト」の会費から生じる利益の50パーセントを用いて行っております。なお会員の皆様は、ご入会時に「会員規約への同意」と「社会貢献事業への同意」をされ、弊研究所を通じて社会貢献事業に参画していただいております。

実績値として2023年度及び2024年度、社会貢献事業へ使用させていただいた費用をパーセンテージ表記にて公開いたします。下記の通り、2023年度は利益の104.3%、2024年度*は126.7%を弊研究所の社会貢献事業へ活用させていただきました。会員制サービス「原田武夫ゲマインシャフト」会費から生じる利益は、余すことなく社会貢献事業へと還元させていただいております。常に寛大なお心で弊研究所の社会貢献事業へお力添えいただいております会員の皆様には、この場を借りて所員一同心より御礼申し上げます。

(*2024年4月1日～2024年12月31日のデータを参照。)

会員制サービス「原田武夫ゲマインシャフト」
会費から生じる利益 社会貢献事業への活用



社会貢献事業 内訳

2023年度

- ◆ IISIAサマースクール(軽井沢)
- ◆ 四則和算サマースクール
- ◆ 東京大学との共同研究・社会連携講座
- ◆ 社会包摂のための“慈愛”プロジェクト
- ◆ 四万十市「七星剣」年代確定プロジェクト
- ◆ NHK交響楽団賛助会員費
- ◆ 国連STI Forum 2023
- ◆ インターネット・ガヴァナンス・フォーラム京都2023

2024年度

- ◆ 東京大学1年生向け主題科目「UT-ONE」
- ◆ IISIA読書会
- ◆ 東京大学との共同研究・社会連携講座
- ◆ 広島大学インターンシップ
- ◆ ひろしま好きじゃけんコンソーシアム
- ◆ 四万十市「七星剣」年代確定プロジェクト
- ◆ NHK交響楽団賛助会員費
- ◆ 海外出張

1 若手人材のためのアントレプレナーシップ教育

アントレプレナーに必要な要素

“情報リテラシー”とは？

「Pax Japonica(ボックス・ジャポニカ)」が実現されるためにまず必要なこと。それは過去に対する偏りの無い正しい認識とそこから導き出した歴史法則をベースにしながら、個別の局面で日々生じ得る困難に立ち向かうべく、未来志向のロードマップを私たち全員が創り上げる能力を磨き続けることです。そうした能力を次の時代を担う若い世代が磨く場を弊研究所は様々な形で提供して参りました。

この能力をより多くの方々に身に付けて頂くため、私たちは2024年度に下記の活動を実施いたしました。

☑ IISIA読書会2024

2024年度には都内の大学生を対象とした「IISIA読書会」を実施いたしました。

本読書会は弊研究所ファウンダー/代表取締役CEOである原田武夫が講師となり、その知識の全てを伝承するような非常に内容の濃い“アントレプレナーシップ”講座です。参加学生には毎回3冊の課題図書が示され、それらを精読するのみならず、なぜ課題図書として選出されたのか、その意図まで考察を巡らせます。読書会当日は、学生が時間をかけてまとめた資料を用いて発表します。普段自分では手に取らない本との出逢いや、年齢、学年、性別が異なる学生が互いを尊重しながら議論する姿を見て、未来を担う若手人材へ新たな知識の扉を開けるきっかけが提供できたと考えております。

弊研究所と致しましては、2025年度も一人ひとりが過去の歴史法則から“気づき”を得て、未来シナリオを描き、それを実現させていく人材へと成長するよう尽力していく所存です。

【概要】

期日：2024年9月9日(月)～2024年12月23日(月)

場所：弊研究所本社丸の内オフィス



IISIA読書会の様子

第1講 情報リテラシーとは —イントロダクション—

▶ 今求められているスキルとしての“情報リテラシー”の俯瞰図を学びます。

【参考文献】

- ◆ 原島博 『原島博講義録シリーズ 俯瞰する知 1巻:情報の時代を見わたす』 工作舎
- ◆ 原田武夫 『世界史を動かす日本 これからの5年を迎えるために本当に知るべきこと』 徳間書店
- ◆ 原田武夫 『世界を動かすエリートはなぜこの「フレームワーク」を使うのか?』 かんき出版

第2講 本当の過去を知る・米欧各論(その1)

▶ 米欧勢を語る際に避けて通れない「ユダヤ的なもの」について考えます。

【参考文献】

- ◆ 小岸昭 『中国・開封のユダヤ人』 人文書院
- ◆ 犬塚きよ子 『ユダヤ問題と日本の工作 -海軍・犬塚機関の記録-』 日本工業新聞社
- ◆ Stephen Birmingham, “The Grandees: America's Sephardic Elite”

第3講 本当の過去を知る・米欧各論(その2)

▶ 我が国とロシアとの関係について考えます。

【参考文献】

- ◆ イーゴリ・アレクサンドロヴチ ラティシェフ 『ロシア金塊の行方—シベリヤ出兵と銀行』 新読書社
- ◆ 黒岩比佐子 『日露戦争 勝利の後の誤算』 文藝春秋
- ◆ 田畑則重 『日露戦争に投資した男 -ユダヤ人銀行家の日記-』 新潮

第4講 本当の過去を知る・米欧各論(その3)

▶ 我が国と米国との関係について考えます。

【参考文献】

- ◆ 迫水久常 『大日本帝国最後の四か月: 終戦内閣「懐刀」の証言』 河出文庫
- ◆ 原田武夫 『騙すアメリカ 騙される日本』 筑摩書房
- ◆ 原田武夫 『アメリカ秘密公電漏洩事件 ウィキリークスという対日最終戦争』 講談社

第5講 アントレプレナーシップとは何か

▶ 本当に求められるべきアントレプレナーシップについて考えます。

【参考文献】

- ◆ 田所雅之 『起業大全—スタートアップを科学する9つのフレームワーク—』 ダイアモンド社
- ◆ 清水洋 『アントレプレナーシップ』 有斐閣

第6講 宇宙を知る —物体と精神の関係とは—

▶ 粒子と波、そして物体と精神が繋がっているとはどういうことかについて学びます。

【参考文献】

- ◆ 内井惣七 『ライブニットの情報物理学 - 実体と現象をコードでつなぐ』 中公叢書
- ◆ H.P. ブラヴァツキー著、田中恵美子、ジェフ・クラーク訳 『シークレット・ドクトリン 宇宙発生論上』 宇宙パブリッシング
- ◆ H.P. ブラヴァツキー著、東條真人編訳 『シークレット・ドクトリンを読む』 出帆新社

第7講 インテリジェンス

【参考文献】

- ◆ 野田敏生 『公安調査庁の深層』 ちくま文庫
- ◆ J. Ransom Clark “Intelligence and National Security -a Reference Handbook-” Praeger Security International
- ◆ Mark M. Lowenthal “Intelligence: From Secrets to Policy (3rd Edition)” CQ press

【参加した学生の声】

「IISIAの読書会に参加したきっかけは、大学主催の企業訪問プロジェクトでした。参加する前までは、『教科書に載っていることが全て』と考えていました。しかし、読書会を通じて、教科書には載らない現実や出来事が世の中には数多く存在することを知ることができました。視野が広がると思うので、参加しようか迷っている方はぜひ参加してみてください！」(東京大学1年・男性)

「きっかけは原田先生の外交官であった経歴に興味を持ちIISIAセミナーに参加させて頂いたことです。その内容をもっと学びたいと思ったため読書会に参加させて頂くことにしました。どの会も新鮮な学びが多くためになりました。その中で様々な事象の繋がりを知ったうえで考えることの大切さを学びました。特に国家・民族と国家の関係に関しては知ることで見えてくる真実があると学びました。」(東京大学1年・女性)

「読書会を通じ、書かれた内容を単に事実として受け止めるのではなく、文脈を踏まえ深く考察する習慣が身につきました。筆者の背景や本同士のつながりを意識することで、読み方の面で成長できたと思います。また、他のメンバーと準備のために対面で議論することは、普段の大学の授業の中ではあまり行われなもので、自らの考察を深める良い機会となりました。得た学びを今後も活かしていきたいと思います。ありがとうございました。」(東京大学1年・男性)

☑ 東京大学「UT-ONE」

弊研究所は2024年度、東京大学1年生向け主題科目「UT-ONE」に参画致しました。「UT-ONE(ユーティーワン)」とは、ソニー東大社会連携講座Ignite Your-Ambitionが東京大学教養学部の新入生向けに開講するアントレプレナーシップ講義です。東京大学のS1タームにあたる5月には26名、S2タームにあたる7月には28名、計54名の学生に「企業訪問」及び「企業提案」のため弊研究所本社丸の内オフィスまでお越し頂きました。

今回東大生の皆様に提示させていただいた弊研究所からのテーマは、「Z世代が望む『ニッポンはこうなってほしい』を教えてください」。具体的には以下の“問い”に対し、約1週間の準備期間を経てパワーポイント資料を作成、当日20分間の発表をして頂きました。

問「2040年頃に人口の高齢化がピークを迎える我が国。未来学者であるレイ・カールワイツ氏(米)は、これに追い打ちをかけるよう



UT-ONE企業訪問の様子

に2045年にはAIが人間の知能を完全に超越する“シンギュラリティ”を予測している。2045年、我が国はこれらによって衰退するのか、それともかえって発展するのか。グローバル社会でどのような地位を占めることになるだろうか。」

学生発表後は、弊研究所ファウンダー/代表取締役CEO・原田武夫及び所員よりフィードバックを提示し、学生が作成した「未来シナリオ」について議論を深めました。

【概要】

期日：2024年5月7日(火)～2024年7月8日(月)計8日間実施

場所：弊研究所本社丸の内オフィス

弊研究所は、2024年度より「ひろしま好きじゃけんコンソーシアム」へ参画しております。「ひろしま好きじゃけんコンソーシアム」とは、産学官金がデジタルツールで複数の組織とつながり、簡単・迅速に課題を解決することを目的とした中四国地域最大規模の「次世代型DXコンソーシアム」です。同コンソーシアムは、2021年10月に7大学で発足し、現在では中国・四国地方をはじめとする17大学、及び計70以上の自治体や企業が参画しています。

2月15日に実施されたPSI主催学生アイデアピッチコンテストでは、弊研究所代表・原田武夫がコメンテーターとして出席いたしました。未来のアントレプレナーのプレゼンテーションに対し、弊研究所ファウンダーとして鋭い確度からコメントとアドバイスをさせていただきました。

【概要】

イベント名：学生アイデアピッチコンテスト

主催：PSI(Peace & Science Innovation Ecosystem)

参加大学：愛媛大学・岡山理科大学・島根大学・徳島大学・広島大学・岡山大学

期日・時間：2025年2月15日(土)13:00～16:00

場所：岡山大学津島キャンパス共育共創コモンズ講義室

観覧定員：オフライン会場200人、オンライン300人

弊研究所ファウンダー/代表取締役CEO・原田武夫は2024年3月、大阪公立大学産学連携教育イノベーター育成プログラム(アントレプレナーシップ教育力育成コース)を修了しました。“元外交官”という実務経験を持ちながら、同時に起業家という“アントレプレナー”であることは、1人の教育者としての強みであり、東京大学、学習院女子大学に続き、2024年6月からは広島大学客員准教授に着任し、アントレプレナーシップ教育(「スポーツ経営学」)に関する講義をさせて頂いております。

弊研究所の“情報リテラシー”及びアントレプレナーシップ教育は、情報化・デジタル化が高度に進み、同時に不安定性がますます増す現代社会とこれらにおいて、若者世代が目標設定とその達成を出来るのみならず、我が国、さらにはグローバル社会全体に対してリーダーシップを発揮する有意な人財となることを通じ、この難局を乗り切っていくことに貢献するようになることを目標としています。同コンソーシアム参画を契機とし、引き続き地方創生の一環として全国の若手人財のアントレプレナーシップ教育に尽力して参ります。



K・Kさん
東京大学
理学部生物化学科4年

■東京大学自主ゼミ参加前後のご自身の考え方の変化

大学2年時に駒場キャンパスで開講されていた原田ゼミを半年間受講後、実務を通じてよりIISIAの活動を知りたいという思いでインターンを開始しました。それから2年間余り、学内外・オフィスにてさまざまな形の読書会を開催していただきました。世界には、伏流のように存在する歴史の流れがあり、それが現在にあっても影響を及ぼし続けていること、その一端を学びました。

■思い出の学び

2024年下半期のIISIA読書会では、東京大学の一年生を中心としたゼミ生に混ざっての参加でしたが、戦前～戦後にかけて先人たちのさまざまな「知恵」があったことの一部を学び、またこれまでの科学の発展もそうであったように、思考の外側(Out of frame)に目を向けて気づきを得るという姿勢の重要性を改めて感じました。

■弊研究所・原田武夫とのエピソード

大学4年次のインターンでは、「神野くん、AI開発に興味はないかい?」と声をかけていただき、以来生成AIを活用した文書検索システムの作成や、公開報道分析の自動化に関わる研究開発チームに配属していただきました。毎回の会議で、人間による複雑な判断を含む「公開報道分析」という作業をどのようにして概念化し、またどの部分を生成AIで置き換えることができるのかを議論するのは非常に刺激的な経験でした。

■大学卒業後の進路・夢

大学院への進学を予定しており、将来は国家公務員を志望しております。

■未来のアントレプレナーシップ講義受講者への激励メッセージ

原田ゼミの主眼とする「情報リテラシー」は、膨大な情報の中から必要なものを取捨選択し、それが将来において持つ意味を引き出す能力ですが、これは職業選択いかんに関わらずに役立つ汎用的な能力だと考えます。これからの学生の皆さんは、ぜひ思考の土台としての読書と、またそれをもとに思考する経験を積むのが良いのではないのでしょうか。原田ゼミは、そのような授業を十数年来展開されてきたゼミであり、学びと気づきを得られる環境だと感じます。まだ価値観が柔軟で将来のキャリアが様々な可能性を秘める時期に、ぜひ積極的に新しい環境に飛び込み、自身の思考の枠組みを広げてほしいと思います。

K・Mさん
東京大学
経済学部経済学科4年

■東京大学自主ゼミ参加前後のご自身の考え方の変化

答えのある問いを解くという受験勉強から自ら問いを立て解を組み上げるという大学での学びへのあまりにもスムーズな移行に離されずについていくため、「未来シナリオとリーダーシップ」と題する自主ゼミを受講しました。日本や世界の真の歴史を学ぶ中で、実際にIISIAで行われている情報分析にも興味を持つようになりインターンシップに参加しました。

■思い出の学び

約2年半のインターンシップ中に、会員様やIISIAの所員の皆さんなどの立派な大人と出会う機会を沢山いただきました。IISIAでのインターンシップ参加後初の講演会で会員様の姿を目にした際に身が引き締まる思いがしたことを覚えています。

■弊研究所・原田武夫とのエピソード

最初こそオンラインでしたが、対面授業の解禁やIISIAでのインターンシップ就業に伴い、代表は私たち学生を気にかけてよく声をかけてくださいます。直近ですと、私の就職先が決まった際には素敵なレストランでのお食事と共に祝いしていただきました。

■大学卒業後の進路・夢

卒業後は国家公務員になります。必死に霞ヶ関の世界を生き抜く予定です。

■未来のアントレプレナーシップ講義受講者への激励メッセージ

未熟な自分では代表の語る世界を十分に捉えきれずに不安を感じることがあるかと思いますが、批判的思考力を持って代表のお話を聞けば、新たな学びを自身の財産として積み上げていくことができるはずです。正誤にこだわらず、自分の頭で考えることをやめないことが大切です。



2 広島大学75+75周年・東広島市制施行50周年記念特別講演会

東広島市及び国立大学法人広島大学のご要請により、「広島大学75+75周年・東広島市制施行50周年記念特別講演会」に弊研究所代表・原田武夫が講師として登壇いたしました。本講演のタイトルは、「世界で一番やさしいリスクリングとアントレプレナーシップの授業」です。急速に変化する現代社会において時代に合ったスキルを身につけ、自分らしく生きるための実践的な方法として、会場及びオンラインにてご参加いただいた皆様に対して、新しいスキルを学び直す「リスクリング」と、自らのアイデアを形にする「アントレプレナーシップ」の基礎について解説いたしました。

【概要】

講演タイトル：いつまでも輝く・つながる自分を創り出す

— 世界で一番やさしいリスクリングとアントレプレナーシップの授業 —

共催：広島大学スポーツセンター、公益財団法人東広島市教育文化振興事業団

期日：2024年11月3日(日)

時間：13:00-16:00

場所：東広島芸術文化ホール くらら大ホール



講演会ポスター



講演会当日の様子

3 東京大学との共同研究

弊研究所が毎年2回発行しておりますのが「予測分析シナリオ®」です。これは、ここ数年の間グローバル社会において経済協力開発機構(OECD)が主導する形で急速に始まった「予見的ガバナンス(Anticipatory Governance)」、すなわち「未来のリスクシナリオ」をあらかじめ思い描き、かつこれを回避するための行動を促すというアプローチを先取りするものです。弊研究所の「予測分析シナリオ®」は、我が国発の取り組みとして高く評価を受けております。

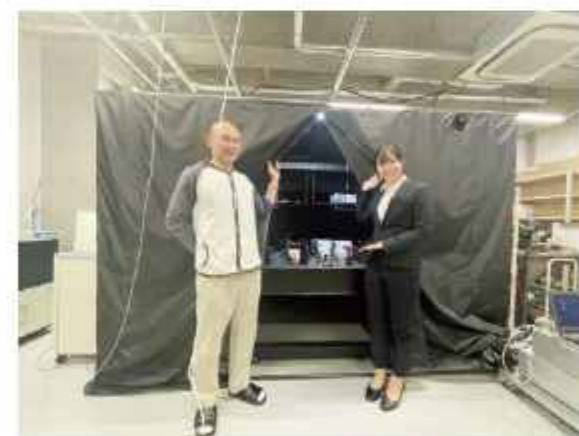
予見的ガバナンスの実施に際して不可欠なのが在るべき世界との差分を埋めるための先端科学技術の社会実装ですが、この観点より弊研究所は我が国有数の大学研究機関と共同で活動を展開しております。

弊研究所では2つの実験を支援しております。

①「反宇宙モデル実証のための光量子を用いた量子ゆらぎ検証実験」では、反宇宙モデルにおける量子ゆらぎによる物質転送を実証するために光量子の量子ゆらぎを観察し、その制御方法を検証することを目的としております。

反宇宙モデルでは時空の極限状態において現宇宙—反宇宙間で物質移動が起こる可能性があるかと予想しています。そのメカニズムとして現宇宙—反宇宙ではブラックホール(BH)/ホワイトホール(WH)遷移により時空の地平線内において現宇宙から反宇宙に物質が移動します。現宇宙においても事象の地平線外においても量子レベルで物質移動が発生しているという仮説のもとで、本実験では超短パルスレーザーを用いた高効率の量子光発生装置を開発して、量子光のもつれ状態を用いた反宇宙由来の物質移動に伴う量子的ゆらぎの発見を目指します。2024年から2029年の5年間を想定しており、量子ゆらぎの制御や検証に焦点を当てた実験を行って参ります。

2024年11月には、同研究を実施する東京大学内の研究室へ訪問し、共同研究員である新谷栄悟先生より実験概要について解説いただきました。



新谷栄悟先生(左)と弊研究所所員(右)



反宇宙モデル実証のための光量子を用いた量子ゆらぎ検証実験の様子

【研究スケジュール】

- 2025年1月 東京インスツルメンツ 近赤外域SSPD単一光子検出器の導入
- 2025年2月 SSPD単一光子検出器の実装と量子光検出準備
- 2025年8月 実験開始
- 2026年2月 研究成果中間報告(予定)
- 2026年夏 論文投稿(予定)

※2025年1月時点

②「人工自我による身体知性にもとづく言語生成の実証実験」では、光吉俊二特任准教授が考案した、バランスの状態を感情の機構として整理する感情地図を応用した人工自我を基礎としつつ、ロボット制御(姿勢制御、出力調整等)をChatGPTのような言語モデルと結びつけ、言語に基づいて構築されていると見られる知性が身体性から構築されることを示す実験を行っております。

【共同研究員】

- 鄭 雄一 先生 (東京大学大学院 工学系研究科 教授)
 光吉 俊二 (東京大学大学院 医学系研究科 客員研究員
 東京大学大学院 工学系研究科 道徳感情数理工学社会連携講座
 Scientific Advisor)
 新谷 栄悟 (東京大学大学院 工学系研究科 特任研究員)
 朝長 康介 (東京大学大学院 工学系研究科 道徳感情数理工学社会連携講座 共同研究員)
 原田 武夫 (株式会社原田武夫国際戦略情報研究所代表取締役(CEO)兼
 一般社団法人日本グローバル化研究機構代表理事)

4 四万十市「七星剣」年代確定プロジェクト

弊研究所は2022年5月、企業版ふるさと納税として「郷土博物館を核とした回遊性のあるまちづくり事業」(2022年度~2024年度実施)にかかる費用を高知県四万十市へ寄付させていただきました。寄付金(3か年度の見込額:7,591千円)は、上記事業の一環である市指定文化財「七星剣(しちせいけん)」の年代特定調査事業に活用して頂いております。

「七星剣」は四万十市に位置する一宮(いっく)神社に古くから伝承されている由来不明の宝剣です。両鑄造りの刀身には、類例の極めて少ない北斗七星を表現した象嵌が施されています。その出自及び年代を確定することで、「小京都」としての高知県四万十市(土佐中村)の歴史・文化・宗教的繋がりや再評価を行い、同地域の観光業やその他産業の発展に繋げていくことを目的としています。また本件「七星剣」の価値を我が国における第一線の専門家による調査で明らかにすることで、今までの研究では明らかとされていなかった新たな史実の探求に努めて参ります。



四万十市一宮神社調査の様子



蛍光X線分析の様子

5 NHK交響楽団への支援

弊研究所は、2023年7月より公益財団法人NHK交響楽団の「賛助会員」です。弊研究所会員制サービス「原田武夫ゲマインシャフト」の会費から生じる利益の50パーセントを用いた社会貢献事業の一環として、同楽団を支援しております。

2025年2月には、当研究所のインターンシップ生及び、当研究所フェウンダー/代表取締役CEO・原田武夫の講義を受講された学習院女子大学の学生11名に対して、音楽芸術の「本物」に触れる機会を設けるべく、2025年2月14日(金)開催の公演会「NHK交響楽団 第2032回定期公演Bプログラム」に招待し、鑑賞会を実施いたしました。

学生からは以下の感想をいただきました。

「オーケストラの演奏を聴く機会が少ないため、クラシックに関心を持つ非常に貴重な経験になりました。」(学習院女子大学3年)

「初めての独唱鑑賞は素晴らしい体験でした。滑らかな歌声とオーケストラの調和は会場全体を美しいペールで包んでいるようでした。本物の音楽に触れることは、作曲者の心情や物語を知ることであり、私たちの芸術的感性に影響を与え、心を柔軟にする大切な体験だと思いました。」(学習院女子大学2年)

「音のない静寂の中、指揮者が指揮棒を振り始めた途端に複雑で壮大な音色が目の前で作り出されていく光景、そして、いくつもの楽器の音色が一体となって初めて生み出されるエネルギーに強く魅了されました。」(テンプル大学3年)

我が国では本来「音楽」の担い手となるべき若い世代の音大生が減少し、それに付随して音楽教育に貢献するための人財教育を担う音楽大学も深刻な経営危機に見舞われております。こうした現状を受け、まずは現実世界で「音楽」の在り方を再構築していくことが求められます。

ソーシャルメディア上における「情報」が我々の日常に溢れ、視覚的な刺激に疲れ切ってしまう現代においてだからこそ「音楽の力」を再認識する必要があると考えております。弊研究所は、今後も音楽・アート分野へ積極的に関与すべく取り組んで参ります。

6 Project Pax Japonica社会浸透のための説明会

2024年7月15日(月・祝)17:00、弊研究所のビジョンである「Pax Japonica(パックス・ジャポニカ)」及び社会貢献事業の現状と今後に関し、弊研究所会員制サービス「原田武夫ゲマインシャフト」有料会員の皆様に対してご説明をさせていただきました。「Pax Japonica」の共通理解と社会浸透は、必ずや我が国の未来を明るく照らすと考えております。

弊研究所の社会貢献事業は、会員制サービス「原田武夫ゲマインシャフト」の会費から生じる利益の50パーセントを用いて行っております。このことを所員一同改めて認識し、会員の皆様への説明責任を十分に果たしつつ、「Pax Japonica」実現のためにさらに精進して参ります。

1 国連大学との共同ウェビナー実施

弊研究所及び国連大学が実施した共催オンラインセミナー「生成AIと外交—その先に待ち受けるもの—(原題: "Generative AI and Diplomacy: What's Beyond?")」(2024年6月25日(火)開催)にて、弊研究所ファウンダー/代表取締役CEO・原田武夫が共同ホスト及びスピーカーとして登壇致しました。本オンラインセミナーにはAI分野で国際的に活躍している海外の研究者2名も登壇し、活発な議論を展開致しました。なお本オンラインセミナーの事前登録者数が世界中から200名を超えるなど、本テーマに対する人々の関心の高まりを実感いたしました。

国連正規機関である国連大学と、独立系民間シンクタンクである弊研究所がこのような共催オンラインセミナーを開催するのは極めて稀です。このことは、弊研究所による研究活動及びグローバル社会に対する提言活動が国内ステークホルダーを超えて、グローバル社会の要路に対して着実にインパクトを与えていることを明確に示しているものと考えております。今回のオンラインセミナー終了後には、多くの聴衆より今次セミナーが誠に時宜を得たものであり、グローバル社会のさらなる前進のために極めて有意義であったと多数寄せられました。

弊研究所と致しましては、今次国連大学とのオンラインセミナー共催の実現を一つの契機として、弊研究所がヴィジョンとして掲げるボックス・ジャポニカ(Pax Japonica)の早期実現のため、グローバル社会全体が辿るべき今後のあるべき道を示すべく、国連等を筆頭とするグローバルな協議体を通じた提言活動をより積極的に展開して参る所存です。



UNU Macau作成 イベントポスター



弊研究所ファウンダー/代表取締役CEO・原田武夫 講演の様子

【イベント概要】

名称 : 「生成AIと外交—その先に待ち受けるもの—(原題: "Generative AI and Diplomacy: What's Beyond?")」
共催 : 国連大学(UNU)マカオ研究所、及び株式会社原田武夫国際戦略情報研究所(IISIA)
開催日時 : 6月25日(火) 午後5時00分—午後6時00分(日本時間)

【スピーカー及び講演テーマ】

- 原田武夫(Takeo Harada):
生成AIの応用: 外交の第二戦線としての日本の国会における国会答弁書作成
(原題: "Application of Generative AI to Drafting Governmental Answers in the National Diet of Japan as the Second Front of Her Diplomacy")
- ムネーラ・バーノ(Muneera Bano):
グローバルな外交実務における生成AIの役割(原題: "The Role of Generative AI in Global Diplomatic Practices")
- コルネリウ・ビジョラ(Corneliu Bjola):
我々の知る外交が終焉を迎える?(原題: "the End of Diplomacy As We Know It? ")

2 UNUグローバルAIネットワーク参画

弊研究所は2024年7月17日付で国連大学グローバルAIネットワーク(United Nations University Artificial Intelligence Network (UNU AI Network))に加盟致しました。国連大学グローバルAIネットワークは、国連大学(UNU)が加盟メンバーと共に、人工知能(AI)がもたらす多面的な課題に世界規模で取り組むことを目指す団体です。同AIネットワークには、76団体が加盟(※2024年12月現在)しており、学術界の専門知識、民間企業のイノベーション、政策立案者の先見性、そして市民社会の根幹を成す取り組みを統合する、包括的なグローバル・プラットフォームとして構想されています。

今後は国内に留まることなく、こうしたグローバル規模の協議体に積極的に参画することでプレゼンスを高め、今後国連大学との共同新プロジェクトを計画する際に、同AIネットワークへの加盟が非常に有意義であると考えております。

3 サンクトペテルブルク国立経済大学との協定更新

弊研究所及び一般社団法人日本グローバル化研究機構(RIJAG: Research Institute for Japan's Globalization)は、今月(6日)、露屈指の大学の一つであるサンクトペテルブルク国立経済大学と弊研究所との間の協力協定を更新いたしました。

弊研究所は、2018年12月に露・サンクトペテルブルク国立経済大学との間で教育プログラムに関する協力協定を初締結してから、良好な関係を継続しております。2019年8月には、弊研究所・本社丸の内オフィスへ露現地より2名の学生を招聘し、弊研究所における海外大学との間における初のインターンシップを実施いたしました。2020年、2021年、2022年、2023年に引き続き、2024年もまた協力協定を更新しております。国内に留まることなくグローバル規模でアントレプレナーシップ教育を推進することが、弊研究所がヴィジョンとして掲げるボックス・ジャポニカ(Pax Japonica)の早期実現のために有益であると考えております。

本協定に基づく教育プログラムに関して今後ともサンクトペテルブルク国立経済大学当局とさらに連携を深め、継続的に実施してまいります。明日の世界を担う有意な学生たちに対して集中的なアントレプレナーシップ教育を無償且つ効率的な形を以て提供し、我が国を含むグローバル社会全体のさらなる繁栄と平和のために活動を進めてまいります。

弊研究所は国内に留まることなく、海外で行われる国際会合等を通して独立系シンクタンクとしての幅を広げるべく活動しております。2024年度は、計5回の海外出張を致しました。

- ◎4月22日(月)、23日(火) ——「世界経済水フォーラム」出席 inオランダ・ロッテルダム
- ◎4月24日(水)、25日(木) ——「国連大学AI会議」出席 inマカオ
- ◎10月14日(月) ——「グローバル・グリーン成長週間(グローバルグリーン成長研究所、GGGI)」出席 in韓国・ソウル
- ◎11月12日(火) ——「国際刑事裁判所(ICC)」表敬訪問 inオランダ・ハーグ
- ◎11月14日(木)、15日(金) ——「第16回グローバルピーター・ドラッカーフォーラム」出席 inオーストリア・ウィーン

特に11月の海外出張はグローバル規模での人脈構築が大きな目的でした。11月12日にはオランダ・ハーグにある国際刑事裁判所(ICC)へ表敬訪問し、11月14日及び15日には、オーストリア・ウィーンで開催された「第16回グローバル・ピーター・ドラッカーフォーラム(以下、ドラッカーフォーラム)」に参加いたしました。同フォーラムは2009年以降毎年開催されているマネジメント会議であり、「マネジメントのダボス会議」とも称されます。弊研究所としては3回目の出席となった今回のテーマは「The Next Knowledge Work -Managing for New Levels of Value Creation and Innovation- (次なる知識労働 —新たな価値創造と革新—)」です。同フォーラム当日は、68か国から500名以上の方々に参加し、人脈構築はもちろん世界の経営者、経営学者らが注目するトピック、そして今後必要となるスキルが何であるかを探る有意義な機会となりました。



国際刑事裁判所にて撮影



グローバルピーター・ドラッカーフォーラムの様子



グローバルピーター・ドラッカーフォーラム会場にて撮影

2024年度からの継続プロジェクト(※予定)

- 東京大学との共同研究
- 東京大学1年生向け主題科目「UT-ONE」
- IISIA読書会2025
- ひろしま好きじゃけんコンソーシアム会員
- NHK交響楽団賛助会員
- UNUグローバルAIネットワーク会員
- サンクトペテルブルク国立経済大学との協定
- 国内・海外出張

2025年度新規プロジェクト

☑クスノキ・プロジェクト

2025年、我が国の「団塊の世代」全員が後期高齢者となります。これに伴い、彼らが持つ“知恵”や“匠の技”が失われずに後世へと引き継がれることの重要度が高まっていると感じます。すなわち、国民の5人に1人が75歳である超高齢社会を迎える我が国は「想いの伝承」という大きな社会課題に直面しているのです。それらの想いが後世に引き継がれることは、我が国の知恵伝播・技術伝承そのものであり、これが弊研究所のビジョン“Pax Japonica”の実現を促進すると考えております。これを2025年度の社会貢献事業の中核に据え、東野圭吾作「クスノキの番人(2020)」よりインスピレーションを受け、「クスノキ・プロジェクト」を立ち上げることといたしました。

弊研究所と致しましては、近年の自然言語処理(Natural Language Processing、NLP)及び大規模言語モデル(Large Language Models、LLM)に関する研究成果をベースに日本全国を行脚しながら、弊研究所会員制サービス「原田武夫ゲマインシャフト」の会員様をはじめ、広く一般の皆様に対しても、無償のプログラミング講座「クスノキ・AI講座」を実施したいと構想を練っております。主役はあくまでも来場し、参加される方々です。それぞれが抱えられている「事業継承」のお悩みを解決するため、弊研究所の知恵をフル活用し、全力でお支えいたします。詳細は2025年度に入りましたら改めてアップデートさせていただきます。是非、ご期待ください。



☑グローバルへのさらなる進出

足掛け約18年、弊研究所は皆様に支えられ、全国約1100名の会員を抱えるシンクタンクへと成長してまいりました。2025年度もその歩みを止めることなく、国内での社会貢献事業はもちろん海外での主要会議や要人・要所への表敬訪問、また学会での研究発表等を通し、弊研究所の存在とその活動意義を益々提言してまいります。

少子高齢化の問題をはじめ我が国が直面している課題の多くが、今後他国が必ず直面する問題だからこそ、我が国発の課題解決策がグローバル社会の未来を明るく照らすと確信しております。2025年も「Pax Japonica(パックス・ジャポニカ)」の実現を促進するべく真摯に活動を展開してまいります。

会員制サービス「原田武夫ゲマインシャフト」会員様の声



S・K様
(広島県・スタートアップ会員)

●入会のきっかけ

大学での教育と研究に携わる中で、現行の教育システムへの不安を強く感じていました。そんな折、原田先生の講演会に参加し、その圧倒的な洞察力と未来を見通す確かな視座に深く感銘を受け、即座に入会いたしました。

●会員をご継続頂いての感想

会員になって、世界の見方がひっくり返りました。目に見える現象の背後にある複雑な仕組みや法則を、原田先生は豊かな表現力と卓越したナラティブでお伝えくださり、私のような者でも世界の真の姿の一片を感じられることは、この上ない喜びです。他では決して聞くことのできない唯一無二の内容だと存じております。仕事面でも、積極的に挑戦できるようになりました。所員の方々も大変親切で、心から感謝申し上げます。

●社会貢献事業についてのお考え

広島大学のスポーツ経営学とアントレプレナーシップ教育で原田先生にお越し頂きました。受講した学生たちの反応は、類を見ない格別なものでした。豊かな洞察と教養に満ちたお話に、学生たちは心を掴まれ、確実に成長していきました。最後の授業で学生から、感謝の贈り物の提案があり、講義が深く心に響いていたことを実感しました。豊かな教養とともに、人間としての深い学びを与えて頂き、心より感謝申し上げます。

●未来を担う若者へのメッセージ

未来を見据える確かな視点を持った方々が道を示してくださり、希望に満ちた展望が開けていると思います。時代は確実に変わりつつあるので、共に新しい価値を創り、より良い未来を創造していきましょう。

T・M様
(東京都・ゴールド会員)

●入会のきっかけ

ニューヨーク在勤中、9.11に遭遇し、前後のマスコミ報道などに不信感を抱きました。その後しばらくして人事担当者向けのセミナーで原田先生のお話を伺い、その内容に納得感を得て入会しました。

●会員をご継続頂いての感想

海外の情報を中心に、日々気づきにくい情報を一般とは違った視点で分析を提供していただき、また、古神道を含めた話題もご説明いただくことから、私自身の進むべき方法性についても大きなヒントとなっています。また、懇親会を通してほかの会員の皆様ともお話しでき、大きな力を得ています。

●社会貢献事業についてのお考え

未来を担う優秀な学生の教育や、海外の大学生の受入れなどを通じて必要とされる人材になってもらうための次世代の育成、東大との社会連携講座を通じた真に必要なとされる研究への参画、それらの国際的な認知向上のための国連機関等への参加など、先を見据えての事業展開に敬服しています。会費の一部がそれに回っていることにより自分も参画させていただいているようでありがたいと思います。

●未来を担う若者へのメッセージ

皆さんの未来は今までの延長線上とは大きく異なると思います。それに向かって、どのような学びを経てどこに向かうのが重要になります。自らの考えを固めつつ進んで頂き、新しい世界で活躍されるよう祈念しております。

ご支援のお願い/編集後記

☑ご支援のお願い

弊研究所の社会貢献事業は、会員制サービス「原田武夫ゲマインシャフト」の会費から生じる利益の50パーセントを用いて行っております。同会員制サービスに入会頂くことで弊研究所を通じ、社会貢献活動に参画頂くことが可能です。

また、こうした活動に対する個別のご支援(ご寄付)を検討頂けます場合、「お名前」「ご所属」「ご連絡先」「ご寄付額」を記載の上、下記アドレスまでご連絡くださいますようお願い申し上げます。

お客様サポート窓口 Eメール：contact@haradatakeo.com

☑編集後記

この度、当報告書を発行するにあたり弊研究所会員制サービス「原田武夫ゲマインシャフト」会員様、東京大学「原田武夫ゼミ」卒業生、IISIA読書会参加学生など様々な方からのご協力を賜りました。まずはご協力頂きました関係各位に心より御礼申し上げます。

今年度(2024年度)は国連大学マカオ研究所との共同ウェビナーでの国外研究者との交流や、定期的な海外出張による海外ステークホルダーとの関係構築など、国内に留まることなく弊研究所のリーチを拡大することができました。

世界各国で選挙が行われた2024年度、長年の政権が変わり新たな首相が誕生した国や、再選という形で首相の座に戻ってきた話題の人物など、世界は脱皮をしたように新たなフェーズに突入したように感じます。そのような時代だからこそ、歴史を正しく認識し、理解するためのアントレプレナーシップ教育による若者人財の育成はより一層需要を高め、「予見的ガバナンス」に基づく社会貢献は、我が国からグローバル社会へと伝播していく平和、すなわち「Pax Japonica(パックス・ジャポニカ)」へ我々を必ず導くと信じております。

末筆ではございますが、当報告書を発行するにあたりご支援・ご協力頂いた皆様に深く御礼申し上げます。誠にありがとうございました。今後とも弊研究所の社会貢献事業へご理解・ご協力賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

2024年度社会貢献事業報告書 編集担当
株式会社原田武夫国際戦略情報研究所 事業執行ユニット社会貢献事業部